

Presented by
nmtk

君と
寄り添う
夢の涯

寄り添

(煉獄杏寿郎) (竈門炭治郎)

ゆめのはて

成人指定
Dom/Sub
universe

鬼滅の刃非公式ファンブック

君と
夢の涯
寄り添う

きみとよりそう
ゆめのはて

大正ドムサブシリーズ4作目です

煉獄さん生存if

Dom/Subユニバース設定(Dom煉獄×Sub炭治郎)

※コマンドなどを必要に応じて日本語に言い換えています
(例：kneel…座りなさい、care…いとなみ など)

原作の展開(遊郭編)を改変しています

シリーズ物のため、前作を読んでいないと
「ん？」となることがあるかもしれませんが
細かいことを気にしない方は大丈夫かもしれません

次ページに大まかな設定と前作までのあらすじを
載せていますのでご参考にどうぞ



煉獄杏寿郎(20)

無限列車の任務で負った怪我により柱を引退した。現在はお館様の補佐や調査任務などを担っている。重度のサブと診断され調子を崩していた炭治郎のパートナーとなった。実はこの人も結構重度のドム。サブの身の回りの世話をしたいという欲求を持っている。最近炭治郎が少しずつ世話をさせてくれるようになって嬉しい。もっとしたい。



竈門炭治郎(15)

ある日突然体調を崩し、「重度のサブ」と診断される。煉獄の協力により体調は安定してきたが、定期的な「いとなみ」を必要としており、任務の傍ら炎屋敷に通う日々を送っている。煉獄のパートナー。煉獄の身の回りの世話を焼くのが好き。尽くしたがりが。抱っこされたり構われるのも好きだが「長男」なので恥ずかしくて煉獄から世話されることは気が進まないが最近「いとなみ」の後なら任せられるようになってきた。

このシリーズでは一部の用語を日本語に言い換えています

safe word ⇒ 合言葉

care/play ⇒ いとなみ

sub drop ⇒ 憔悴している

sub space ⇒ 恍惚状態

【Dom/Subユニバースのススメ】
Dom/Subユニバースの世界観については
こちらがわかりやすいかと思います→



前作までのあらすじ



1作目 2022年7月発行
「満たしてあげよう こちらへおいで」

体調を崩して受診した蝶屋敷で「重度のサブ」だと判明し、本能からの欲求を満たす必要があると言われた炭治郎は、ちょうど居合わせた煉獄に協力してもらうことになった。「ドムとサブ」について教えてもらいながら欲求を満たしてもらい、体調が戻った炭治郎。どうやらお互いの相性がいいということがわかった二人は今後も体調を保つため、お試しで組んでみることになったのだった。



2作目 2022年12月発行
「あなたに近づく 満たされる」

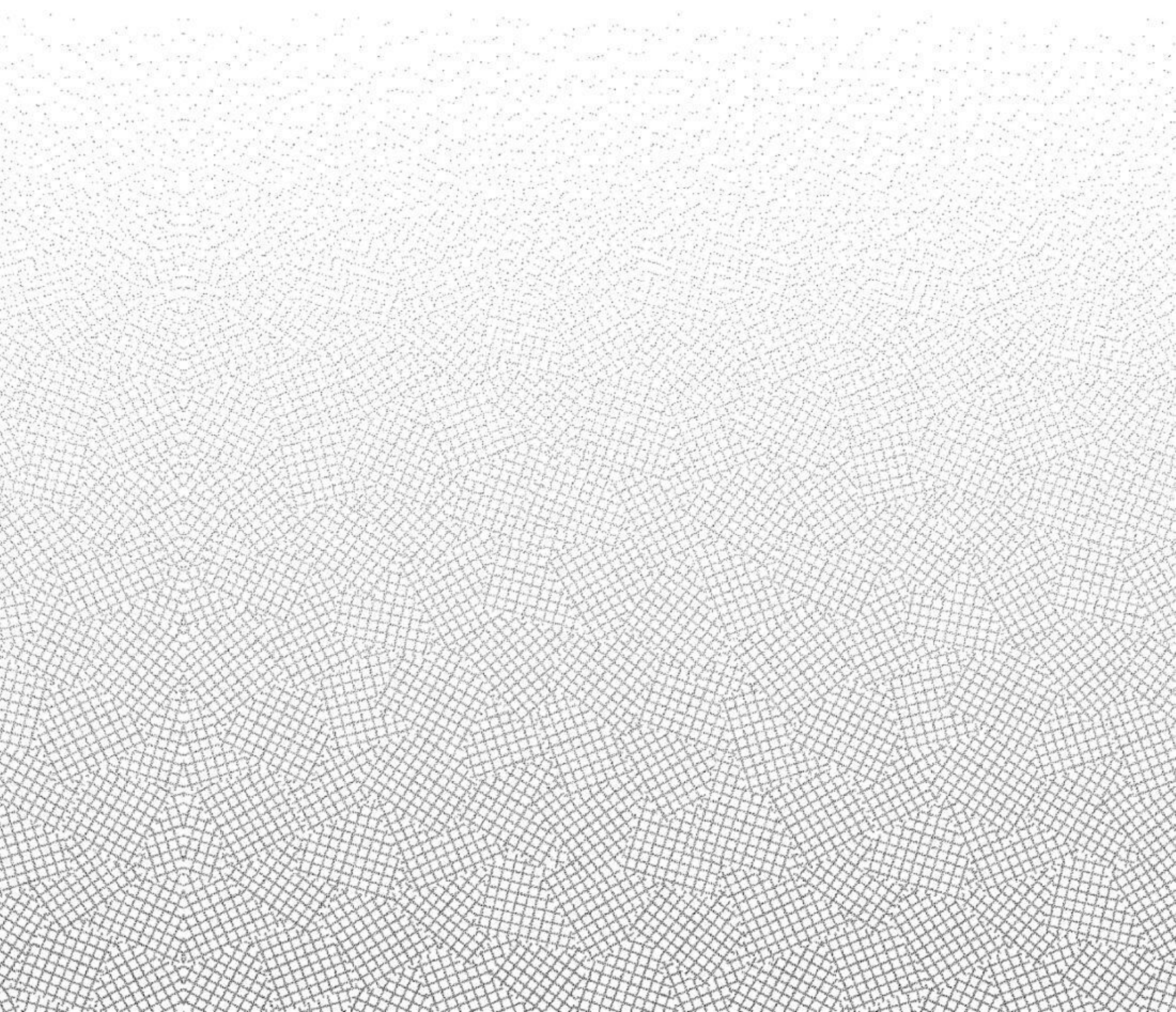
お試しのパートナーとして組んでみることになった煉獄と炭治郎。炭治郎は定期的に煉獄のもとへ通い、煉獄と「いとなみ」(欲求を満たすための行為)をすることにも慣れてきた頃、煉獄に頼まれ、無人の煉獄家で一人留守番をすることに。しかし炭治郎はとてつもない寂しさに襲われてしまい——。寂しさで一人寝ができないということが判明した炭治郎は羞恥心から及び腰になるが、煉獄はむしろそれがいいと炭治郎に正式にドムとサブとして組んでほしいと申し出るのだった。



3作目 2024年1月発行
「すべて委ねて 差し出して」

正式なパートナーとなった煉獄と炭治郎。ある日任務で炭治郎がケガをしてしまい、数日の安静を言い渡されてしまう。ここぞとばかりに身の回りの世話を申し出た煉獄は、炭治郎の移動の際に抱き上げて運んだり、風呂の介助を申し出ては嫌がられたりしていた。安静指示で任務も休みになり時間ができたため、二人のパートナーとしての「いとなみ」もより深いものへと進歩し、関係が深まるにつれて炭治郎は自分が甘えると煉獄が喜ぶことに気付く。炭治郎はもっと喜ばせたい、褒められたいと、嫌がっていたことも全て煉獄に委ねた結果、「恍惚状態」に入ったのであった。お互いのことが好きだと自覚した二人の関係は——？

結局前作から一年ほど経ってしまいましたがなんとか形にできました。
前作の内容を考えていた時から温めてたネタです。やっと描けた…！
少しでも楽しんでいただけたら嬉しいです。





初めての
いとなみの直後

煉獄家にて

合言葉…

あのときは確か…
柘榴でしたよね

そうだ

君が良ければ
そのままでも
いいんだが



嫌なときに
拒否する
ための言葉

わがかりやすい
方がいいよない…



それじゃあ…



いざという時
とっさに言えるか
どうか重要なだ

なるほど



『嫌です』だと
ついほろっと
言ってしまう
そうなので…

ふむ



『勘弁して
ください』
はどうですか



ないんじゃないか？

それでは
今後の合言葉
は決まりだ

はい



君がその言葉を
口にしたら

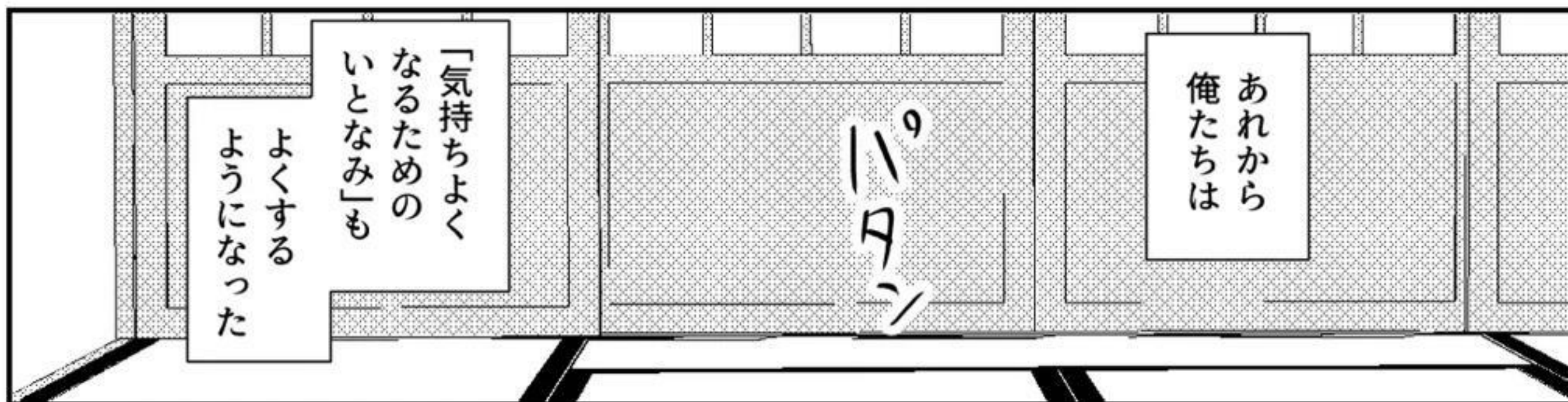
俺は何があっても
その行為を中止
すると誓う

安心してくれ

君と
夢の涯
寄り添う

きみとよりそう
ゆめのはて



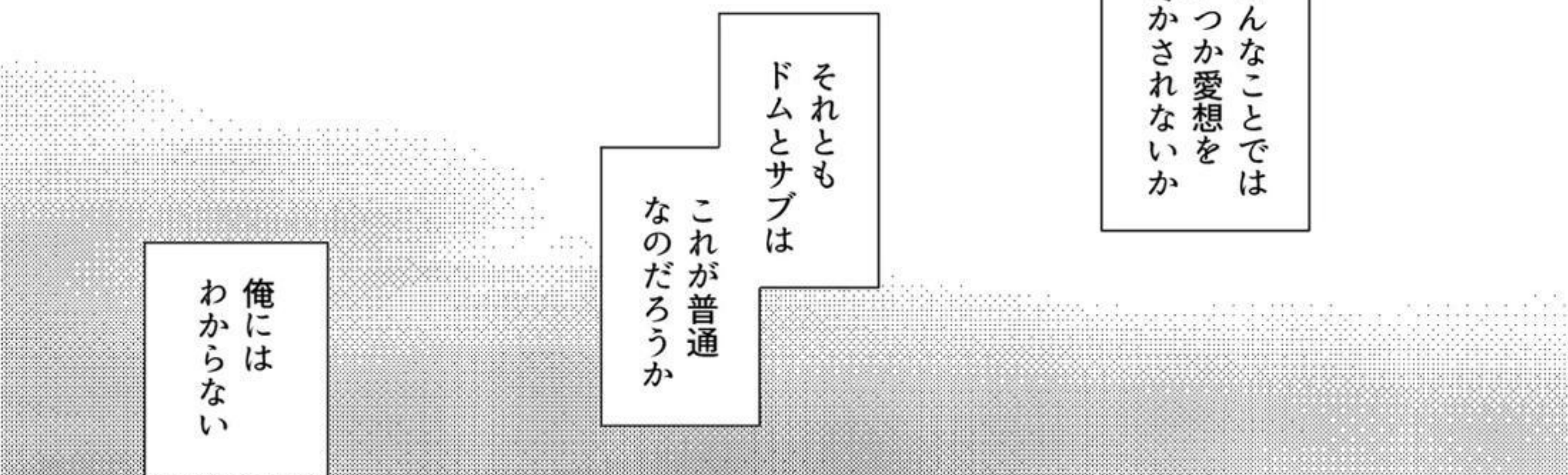
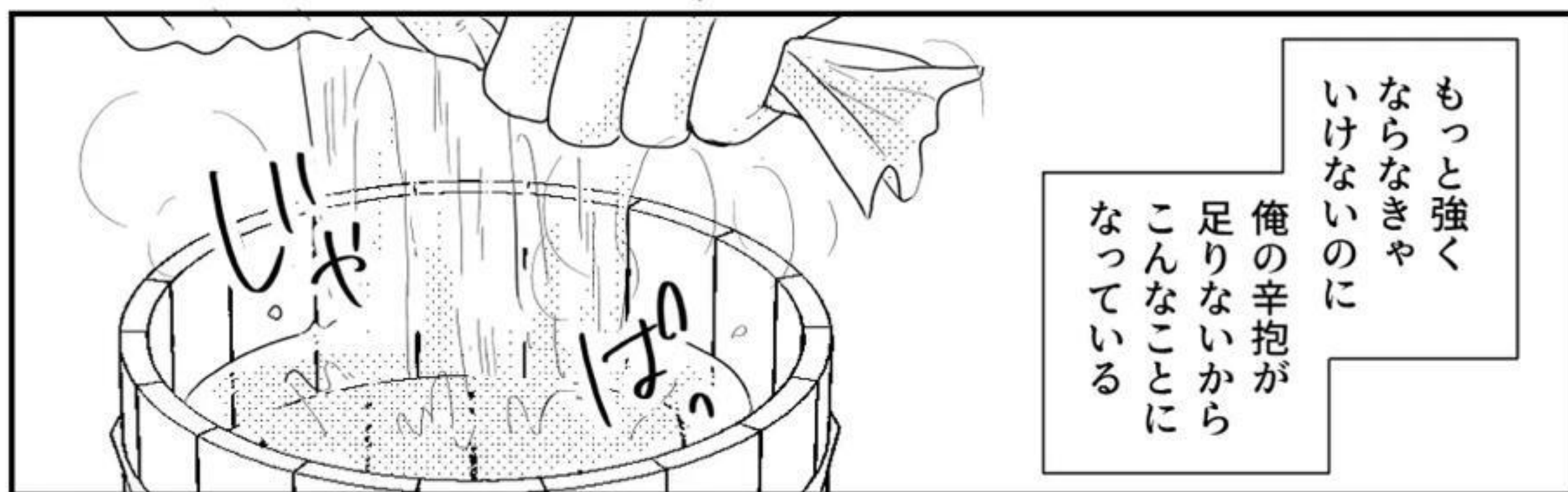






でもそれは
鬼殺には
関係ない





君と
夢の涯
寄り添う

きみとよりそう
ゆめのはて



うーん…

ドムとサブは
そういうもの
なのでは？

いとなみを
重ねたこと
によって

サブの特性が
強まったとも
考えられますが…



炭治郎くんは
十分に任務を
こなせていますよ

治療や補給で
拠点に戻るの
は普通のことです



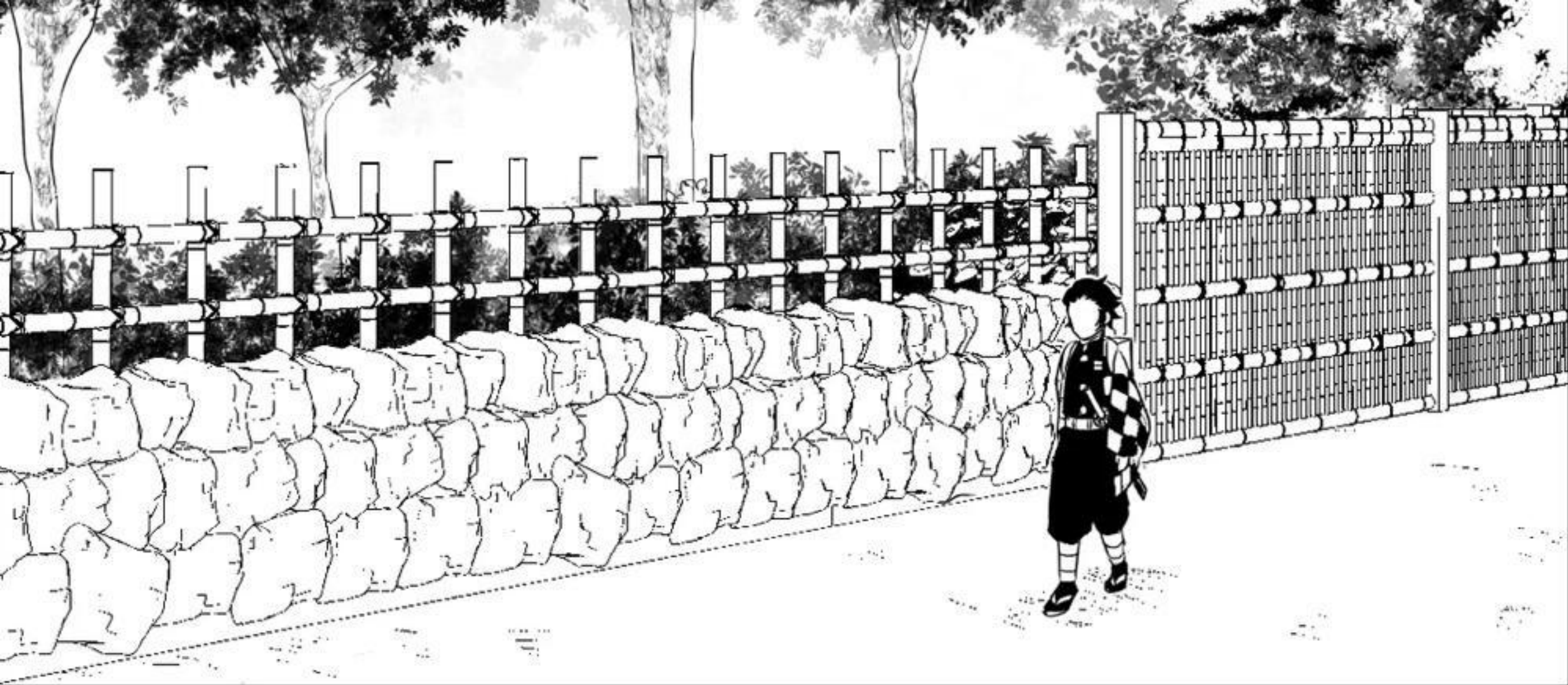
でも俺は
毎回ですよ

塵も積もれば…って
言うじゃないですか

君が万全な状態で
闘うためには
必要なことです

お館様が認めて
いるんですから
大丈夫ですよ





もっと何か
できることが
あるんじゃないのか？





この関係が
なくなったら
俺は動けなく
なってしまう





何か不安があるなら
言ってごらん？



あ……

炭治郎
どうした？
浮かない顔をして
いるな



もう少し時間を
いただけますか？



不安はある
んですけど
まだうまく
言葉にできな
いんです



自分で
考えることも
必要だろう

だが不安を
放置するわけ
にはいかない



命令して
言わせることも
できるが……



はい
ありがとうございます



それでいいか？

ただし次の
いとなみまでだ
それ以上は
待てない



わかった



椅子？



ちょっと
小耳に
挟んでな

サブはドムから
見下ろされるのが
好いらしい



うん
それでは
続きを
しよう

今日は
いいものが
あるんだ

いいもの？

ギョ

炭治郎

「俺の目を見なさい」



本当だ…

落ち着く…

正しいところに
歯車をかちりと
はめ込むような感覚

これが正しい
立ち位置なのだ
ということが

直感として
わかる



吸い込まれて
しまいそうだ

はあ

はあ

「うん、いいぞ」

「そのまま
こっちにおいで」

へへ

へへ

落ち着くのに
興奮もする

早く命令を
聞きたい

ぽん

さあ
始めようか

君と
夢の涯
寄り添う

きみとよりそう
ゆめのはて

ありがとうございます
ございました！



ああ
今日の飯も
うまかった！

こちらこそ
ありがとう！

はい！



さあ
約束の確認だ



【言ってごらん】

任務に出るときの
約束はなんだった？





色や形は
変わらない

しかし何かが
決定的に違う

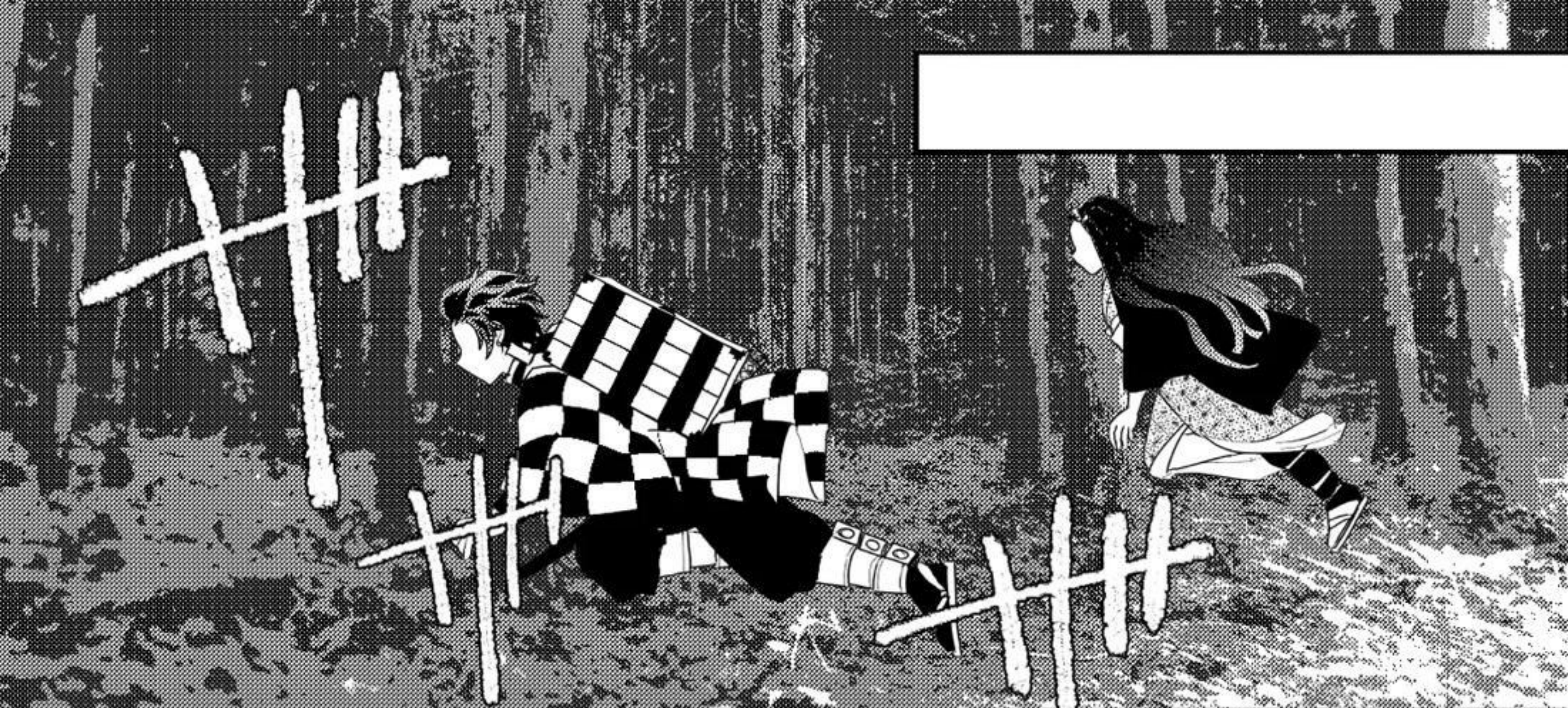
あたたかく
やさしい

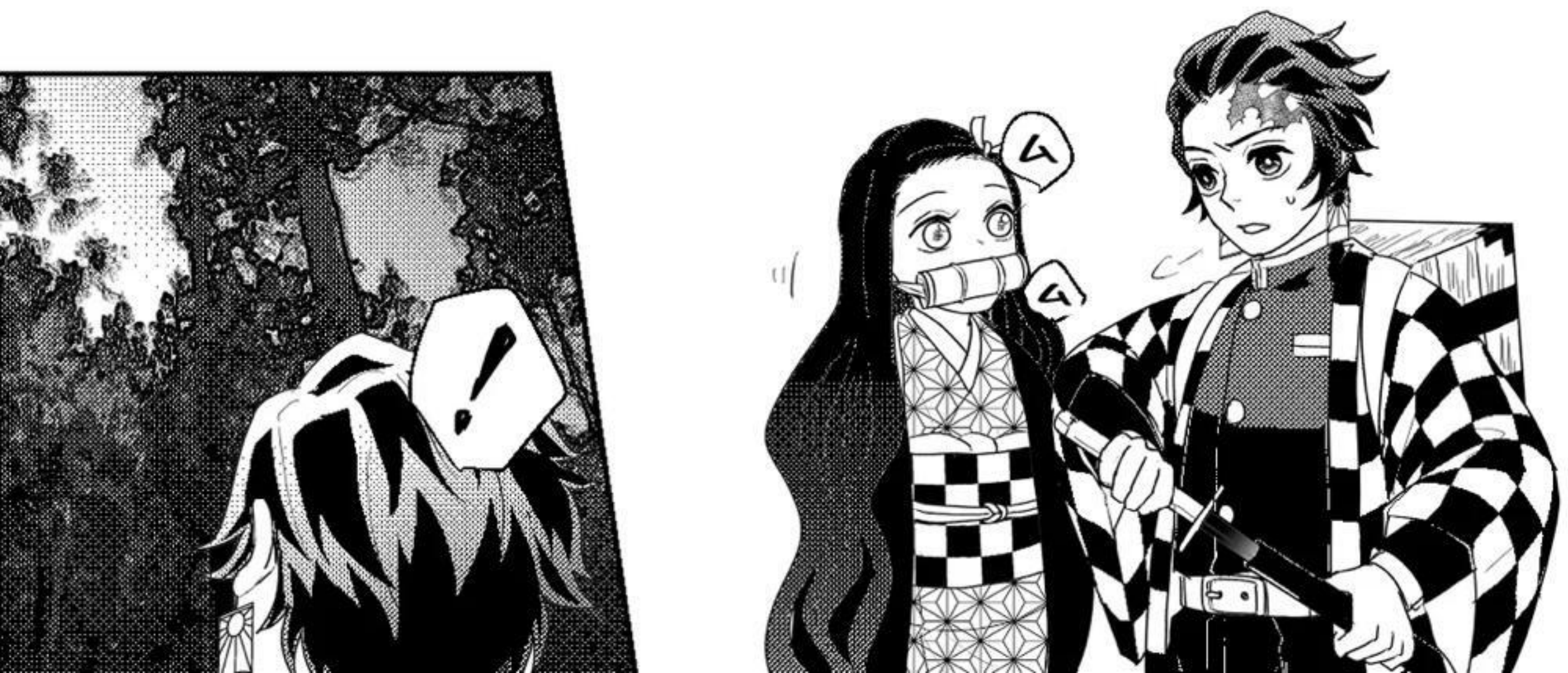
それでいて
絶対的な
瞳の強制力

その日の任務が
終わったら
煉獄さんの
ところに必ず
戻ります

【そう、いい子だ】











だから毎日
いとなみをする

戦闘に万全を
期すために

それが
もどかしい



サッ
グ

でも本当は
わかってるんだ

しのおさんが
言うことが
正しいって

炭治郎くんは
十分に任務を
こなせていますよ

治療や補給で
拠点に戻るの
は普通のことです



今日は任務を
二件こなした

任される任務も
どんどん難しく
なっている

鬼殺隊として
十分やれている

それでも
歯がゆい

煉獄さんが
いないと

動けなく
なる自分が

本能に
振り回される
自分が

長男なのに
自分一人で
立てていない

今の自分が
情けない

今までどんなに
しんどくたって
耐えてきたのに

すぐに煉獄さんを
頼るからいけない

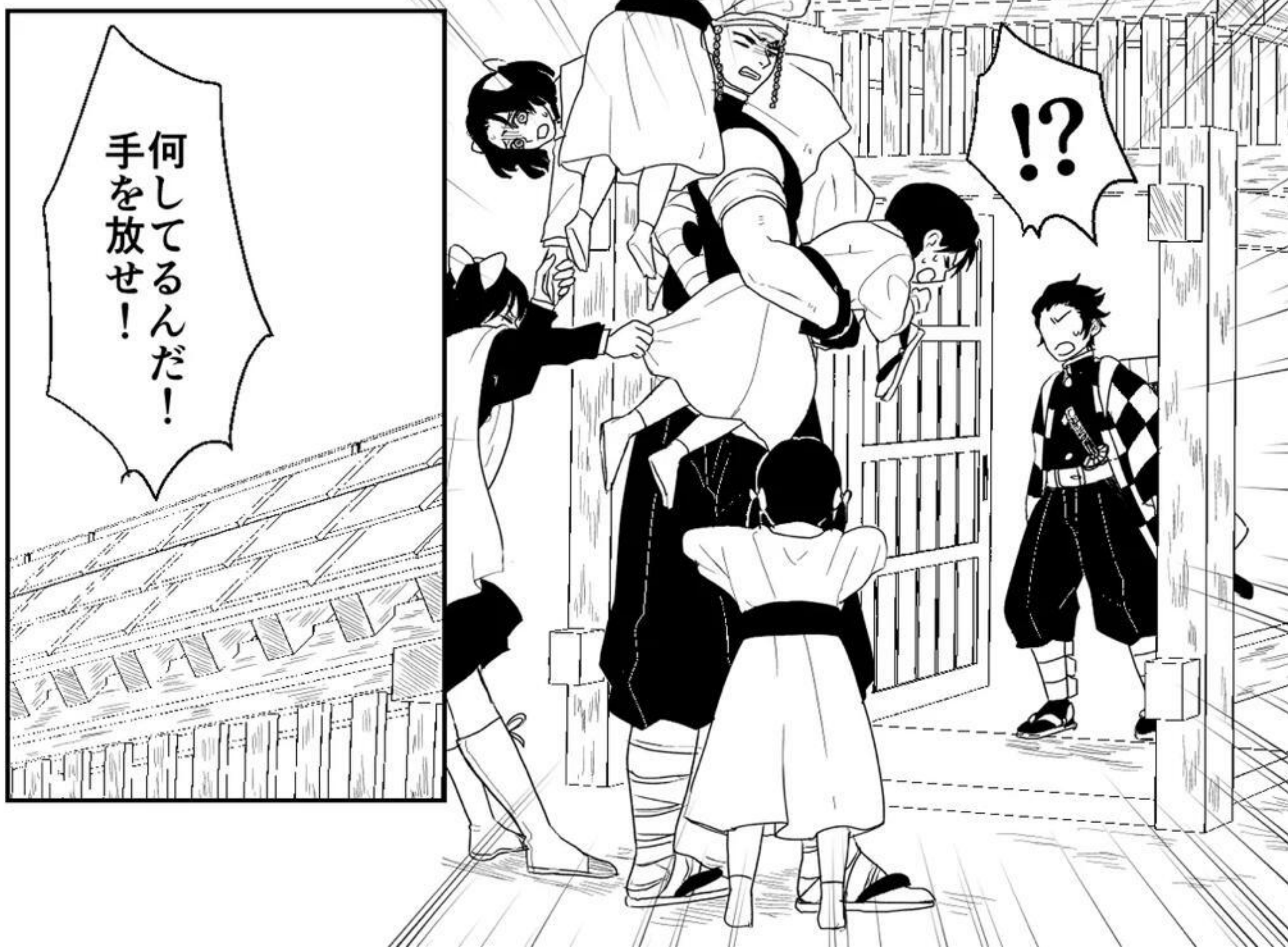
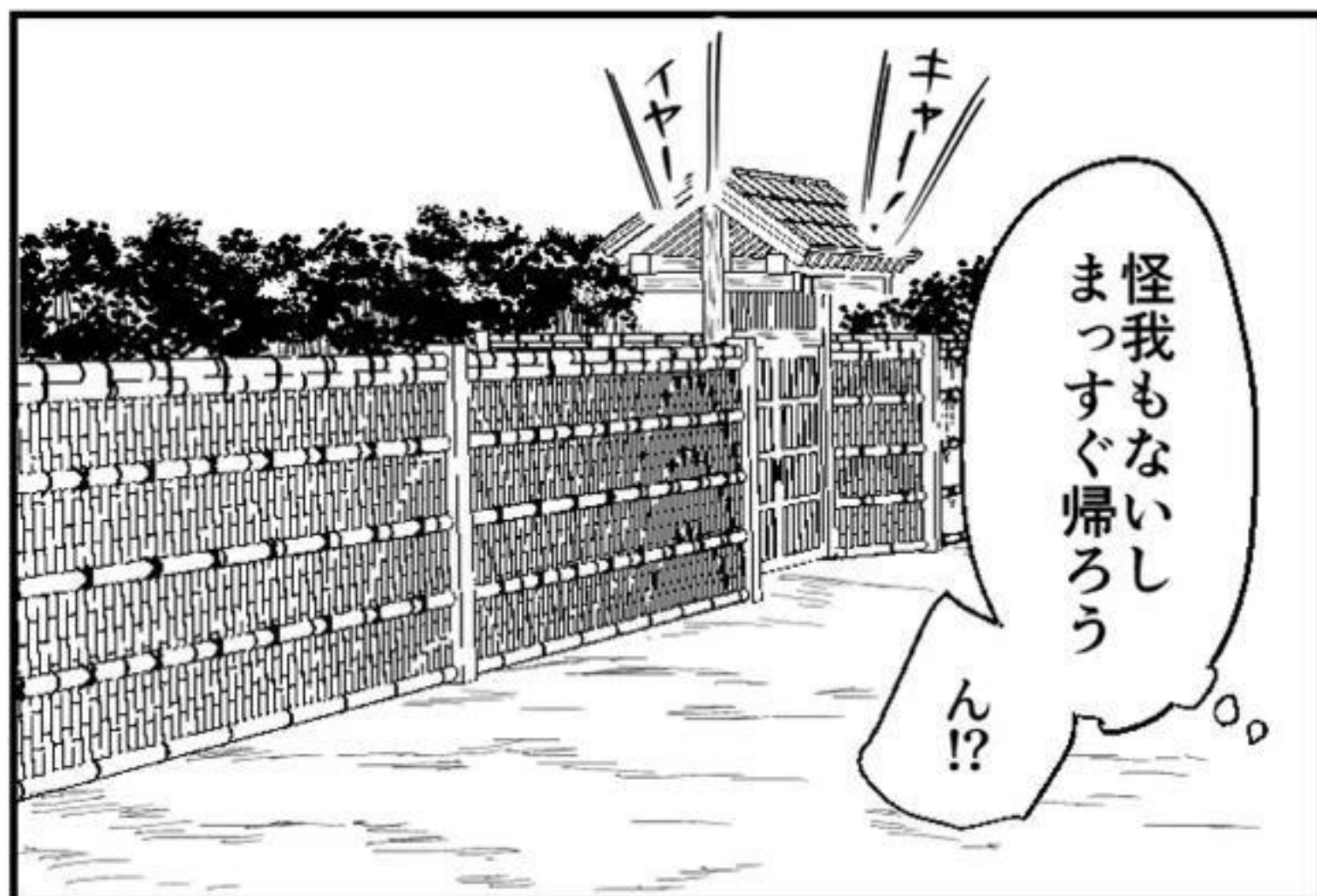
やはり俺は
煉獄さんに

依存しすぎて
いるのではないか

苦しくなっても
暫く我慢したら

案外平気にな
るんじゃないか？

だって今まで
ずっと平気
だったのに……







なんやかんや
ありまして...









炎屋敷

竈門少年が
帰ってこない



明け方に
手紙が来て

帰らないまま
もう昼だ

何かあったの
だろうか？

まさか
体調を崩して
動けなくなっ
ていてる…？

ひいたっ

もうしばらく
待っても
帰らなけれ
ば探しに行
こうば

煉獄サマ
竈門炭治郎ヨリ
伝達デス

まさか本当に
具合が悪いのか！？

カ
サ
ッ

ぽっ

カ
ア
カ
ア

の度宇髓さんに伴はれ
任務に赴くことと相成りました
元の約束を違へてしまいます
こと誠に申し訳なく存じます
此方の体調は差し支へないよう
せんゆえ何卒ご心配なさい
お願い申し上げます

フン

ハ
ン



なんだって？
宇髓と別の
任務…？

俺との約束は
どうなった？

ぶる

差し支えない
とはなんだ？

ぶる



任務後はここに
戻ってくる約束
だったはずだ

必ず俺のところに
帰ってくるように
命令したのだ

それを
こんな手紙
ひとつで

あまつさえ
他のドムに
着いていった
だと…!?

俺のサブ
炭治郎は
俺を裏切った!!

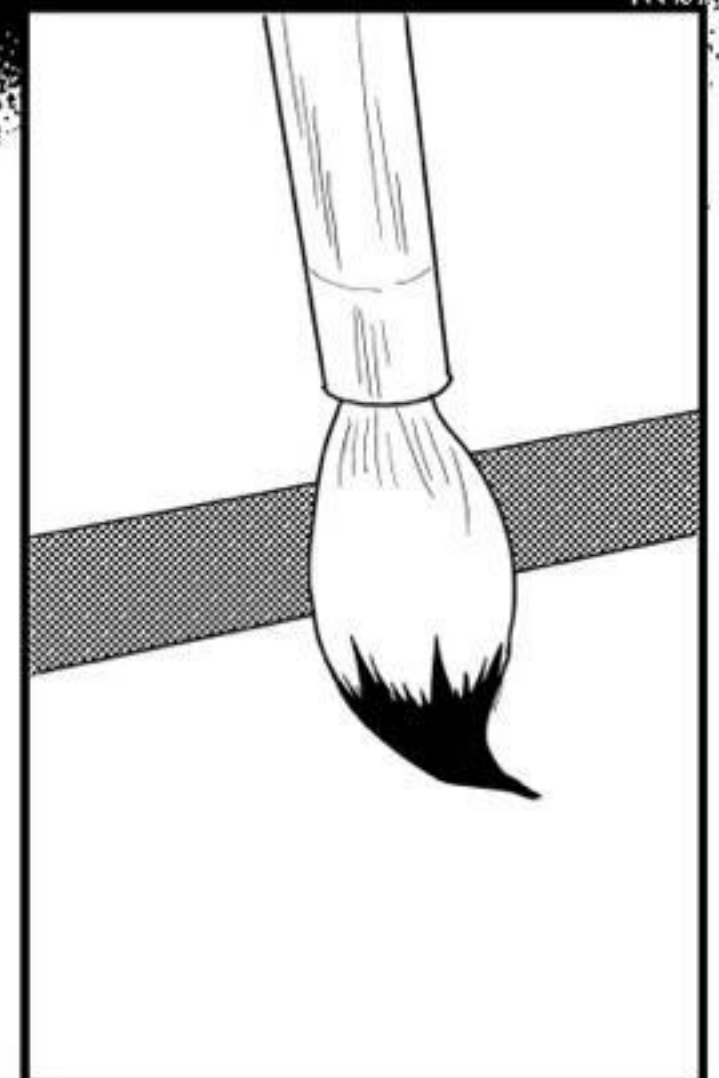


これを
宇髄へ
吉原にいる
はずだ



要
いるか

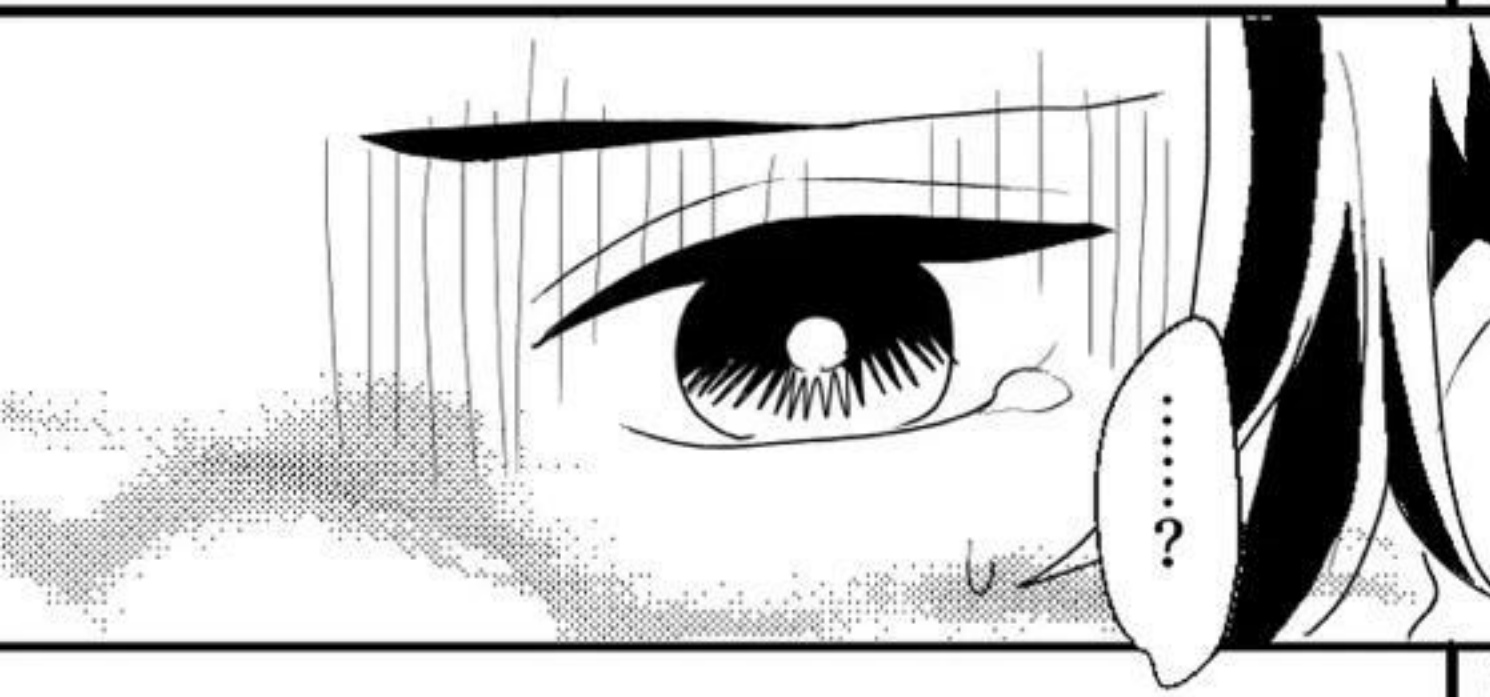
ハイ
杏寿郎サマ



















そう
君は俺との
約束を破った

俺の
言いつけに
背いたんだ

……ッ

悪い子はお仕置きだ

く
あ、



そうだ
俺は煉獄さんの

自分のドムの
言いつけを
守れなかった

悪い子だ

衝動的なもの
だとしても

不安があったも
からだとしても

やったことには
変わりが無い



不安だったなら
それを煉獄さんに
言うべきだった

黙って抱え込んで
俺は煉獄さんを
裏切ったんだ……！

くすん……

くすん……

捨

て

ら

れ

る

恋人に
捨てられて

私が悪い

言いつけを
破ったからって



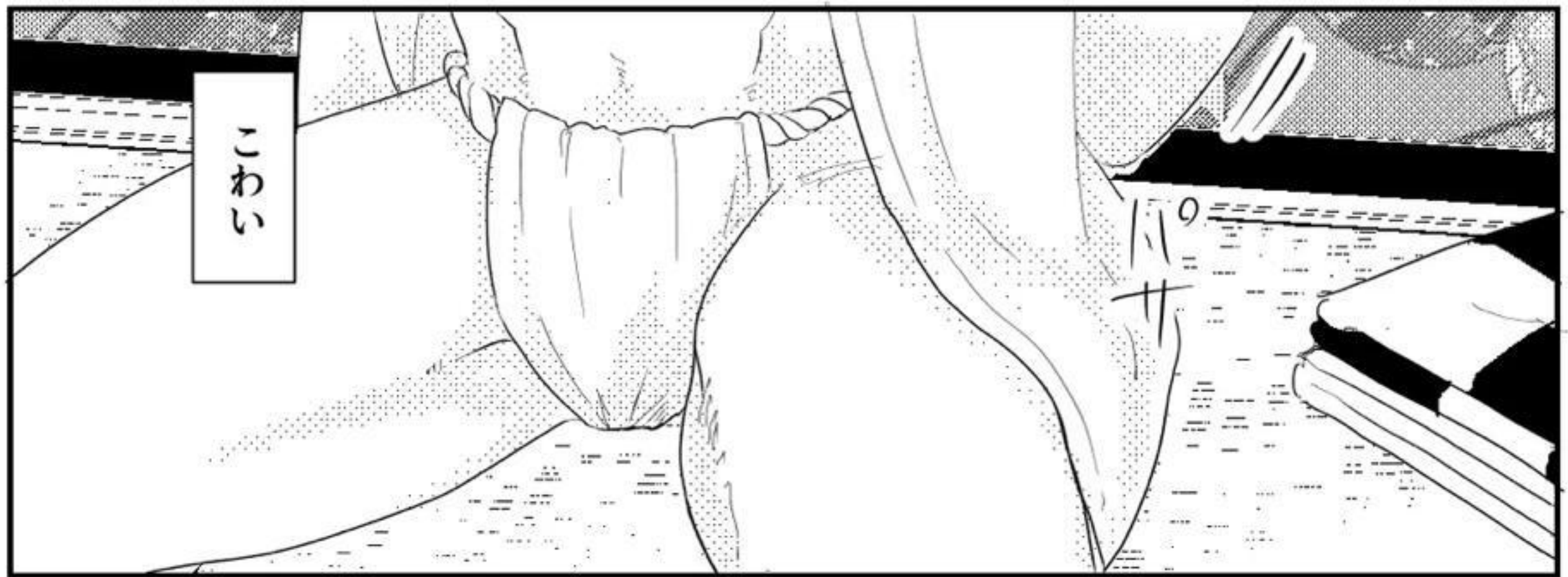
ト
ン
ン

ト
ン
ン

ト
ン
ン

どうしよう
どうしよう……!







【そのまま止まれ】



炭治郎を

自分のサブを
意のままに
操っている

もつと：
もつとだ

支配したい

その興奮は
何事にも
変えがたい



そのために
もっとお前を
追い詰めよう

気配を断ち

息を潜める

獲物を睨む
獣のように

俺のサブだ

俺だけの
ものだ

炭治郎……！

音がしなく
なった

煉獄さんはいる
匂いがする

お仕置きとは
何をするの
だろうか

それを耐えれば
許してもらえる
のだろうか

怒りと
嫉妬の匂い

そこに興奮と
愉悦の匂いが
混ざって

どろどろ
している

こわい
煉獄さんじゃ
ないみたいだ

これはお仕置きだ

悪いことをしたん
だから耐えなきや

耐えて
ちゃんと謝って
許してもらわなきや





終わりが
わからない
ままで

我慢を
強いられる
のはつらい



このまま
許されることは
ないのだろうか

このままここに
置いて行かれて
しまうのだろうか



こわい

耐えろ

こわい……！



ぽた
ぽた

果てなく永遠に
続くような
気がしてくる

すっすっ

また
どろどろの匂い

煉獄さんの
匂いは
いつも甘い

慈しみの
あまい
あまい匂い

あの
あまい匂い
がしない

後ろに
いるのは
誰だろ
うは

煉獄さんは？

怒らせたから
いなくなつて
しまった…？

動いちゃ
いけない
命令を守れ

俺は
もう許して
もらえない？

呆れられた？

ちがう
落ち着け

俺が
言いつけを
守れない
悪い子だから

煉獄さんは
いなかった？

ちがう
煉獄さんは
いるんだ

怒ってる

匂いがする

は、

は、

ごめんなさい
ごめんなさい

許して
捨てないで

こわい

こわい！

嫌だ！

ぷる

ポタッ

ぷる

助けて
煉獄さん！

君が
その言葉を
口にしたら

何があっても
俺はその行為を
中止すると誓う

安心してくれ

合言葉

合言葉は
何だった？



かつ…

【勘弁して
ください！】



まるでがつんと
横っ面を殴られた
ような衝撃

合言葉

合言葉だ

自分のサブが

合言葉を言った

ああ
なんという
ことだ...!!





炭治郎
いい子だ

もう
動いていい

俺の言いつけを
しっかり守れて
偉いな



よく頑張った

お仕置きは
終いだ



れ

れれ
れんごくしゃ……

俺……おれ……

ホロ
ホロ



本当に
いい子だ



うん

うん
怖い思いを
させたな

止めてくれて
ありがとう

ぎゅ



ごめんなさい

ごめんなさい……!!

俺……!
煉獄さんを
裏切った!

煉獄さんに
相談しなきゃ
いけなかったのに!

なんでも言えって
言われてたのに!

気付いていたのに
きちんと解決せず
後回しにした

俺にも責任の
一端はある



お互いの信頼が
大事なのに！

煉獄さんの
言う通り

悪い子だ

それは違うな

俺だって
正気を失って

君を一方的に
責め立てた

言うなれば
お互い様だろう



何度でも
言おう

君はいい子だ
俺の自慢の
サブだよ



君は悪い子
なんかじゃない

とても
いい子だよ



…ほんとうに？

ああ
もちろん



……なあ炭治郎

教えてくれないか？

何が不安だったのか

共に考えよう

一人では難しくても二人なら解決できるかもしれない



甘い匂いだ

いつもの煉獄さんだ

もう怖くない

……俺は

煉獄さんに依存しすぎていませんか？

依存？

最初は
週に一回だった
いとなみが
今では毎日です

ほんの数日も
もたなくなっ
てしまった

これでは
長期や遠方
の任務には
行けない

俺……

自分の辛抱が
足りないんだ
って思ってた

我慢すれば
平気になるん
じゃないかって
魔が差して

うん

言い訳にしか
ならないけど

本当に
破るつもりは
なかったんです……

ごめんなさい

罰ならなんでも
受けます……

ぽろ

ぽろ

ぽろ

ぽろ

ぽろ



お仕置きも
もう一度
してください！

俺：本当に
申し訳ない
ことを…！

反省しますから！
いい子に
なりますから！

だから……！

炭治郎
落ち着きなさい



捨てないで…





捨てるなど
ありえない

君は
そのまま
でいい

俺たちが
離れるのは

どちらかが
死ぬか

君が俺を
捨てるときだ



捨てるものか!!

俺はこの子を
ここまで

追い詰めて
しまったのか!

そうか!?
それじゃあ...

おつ俺が
捨てるなんて!
そんなことは
絶対に
ありませんから!

!?

もう安心だ!

ずっと
一緒だな!

俺はこの人の
ためのサブに
なりたい

やっぱ
この人が
大好きだ

ああ
好きだ...





体調を崩す前に
兆候があるなら
教えてくれ

それが出たら
俺が駆けつける

お館様にも
俺が頼んでおこう

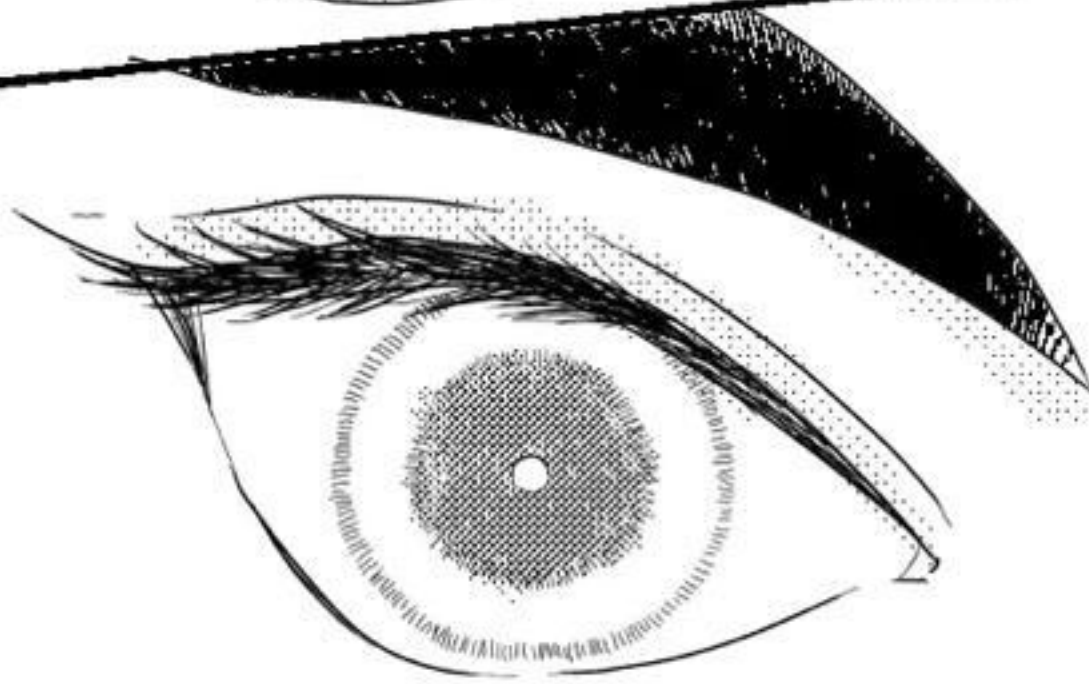
そんな……!

最初から
そうすれば
よかったんだ

俺はもう
裏方だ

君より融通が
利くんだから

強固な意志と
決意の澄んだ匂い



ああ
ああ

この人は
退く気はな
ないのだな

こんなことを
考えた時点で
俺の負けだ

それでも……!













煉獄さんが
好きだ

いとなみを
やり直そうか

怖い思いを
させてしまった分

たくさん
甘やかさせてくれ





声は
出さない



元よりここは
“そのための”
場所だ
誰も
気にしない

さあ
「気持ちいい」と
【言ってるん】



依存して
いいんだ

もっと俺に
依存してくれ

き
きもちい…

気持ちいいッ

俺なしでは
生きられなく
なってくれ

俺が既に
そうである
ように

あー
あー
あー

うん
気持ちいいな

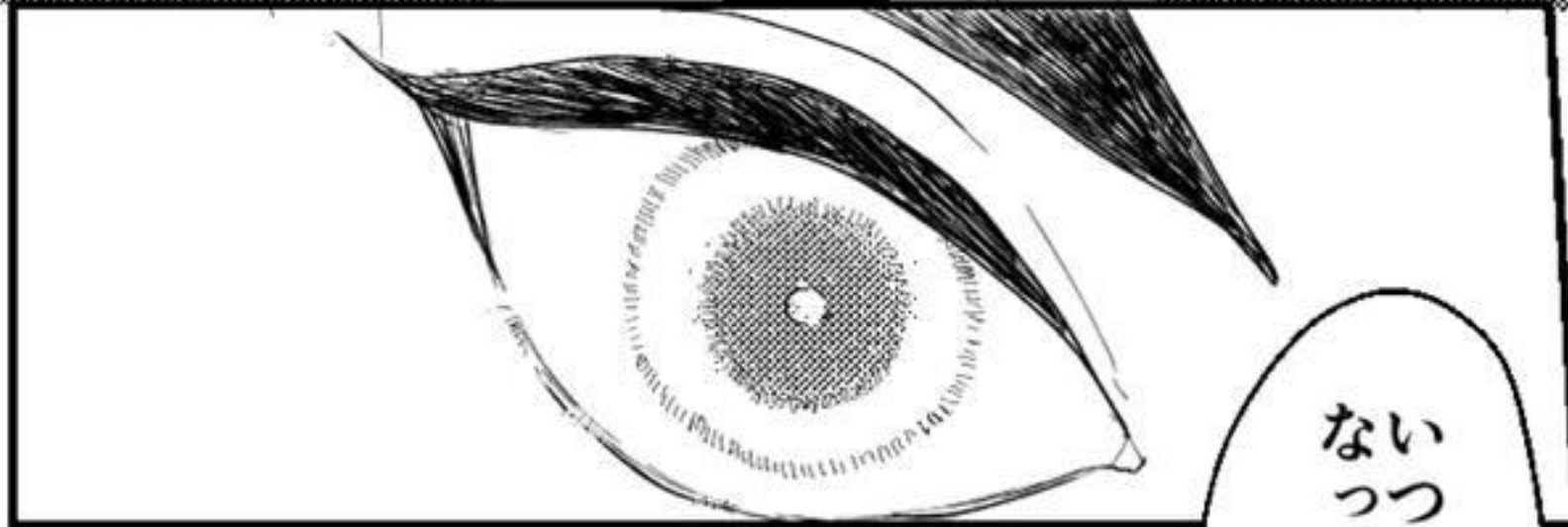
【いい子だ】

だが今は
言わない

君がいつか
目的を果たしたら
その時は――







はい！



鯉夏さん

俺は
ときと屋を
出ます



炭治郎たちが
上弦を斃し

重傷で蝶屋敷に
運び込まれてから
二カ月が経った

炭治郎はまだ
目覚めない

任務の合間を縫って
身の回りの世話は
俺がしている

ば
しゃ
う

もちろん
彼を愛するが
ゆえの行動だが

同時に
ドムの本能が
させていること
でもあった

ドムとて
本能が飢えれば
体調を崩す

胡蝶もそこは
わかって
いるらしい

炭治郎の世話を
申し出るとすぐに
許可してくれた

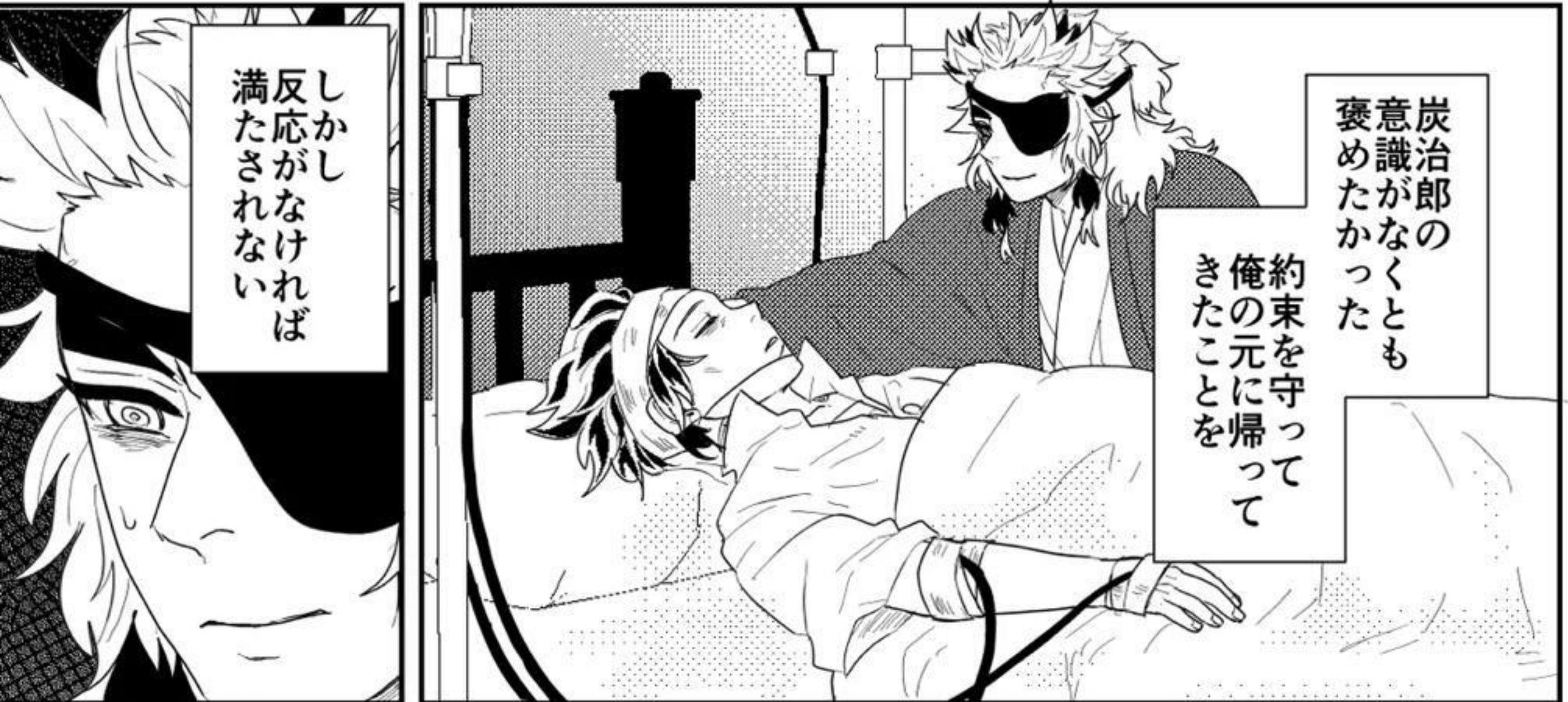


炭治郎
いい子だな

君はよく
頑張っている

上弦を斃して
生き残り
俺の元にちゃんと
帰って来た

約束を守れる
いい子だ



炭治郎の
意識がなくなるとも
褒めたかった

約束を守って
俺の元に帰って
きたことを

しかし
反応がなければ
満たされない



炭治郎の世話を
すること
なんとか
保っているが

もう限界が
近いと
感じている

今日は一日
非番だから

ずっと炭治郎を
見ていられる





炭治郎
いい子だ

俺の元に
よく帰って
きてくれた……！

毎日寝顔に
かけていた
言葉を

今日は
目を見て
言える

俺との約束を
守ってくれて
ありがとう

それだけで
乾いた心が
潤うようだ

本当に
いい子だ！

世話をしたい
褒めたい

しかし
飢えた獣が

少しの肉で
満足できる
わけがない

従えたい
俺のものに
したい

ドムの本能が
餌を求めて
騒ぎ出す





もちろんだ！
無理をしては
いけない

俺のことは
気にするな！

俺は大丈夫
だから……！



前に……
れんごく
さんが……

ドムも
満たされ、
なかったら……

体調を
崩すって……

でもおれ……
ちよつと今
動けないから



ええ

無理は……
しません

まだ力が
入らなくて
起き上がれ
ないの……



れんごくさん
助けてくれ
ませんか？

おれ……
今は自分のことも
ままならないから

……！

れんごくさんに
全部やって……
もらいたいんです

お願いしても……
いいですか？





本当に
何から何まで
世話して
やるからな

覚悟して
おけよ？

下の世話
までされた
炭治郎が

羞恥のあまり
泣き出すまで

あと数時間

すみませんページに余裕がなくて余韻もクソもないこんなところに
あとがき失礼します…！
こんなページ数になるとは思ってなかったんだ…いやほんとに…
それでもなんとか描き切れてよかったです。一応二人もくつついたし…
炭子ちゃんもいっぱい描けて満足であります。
えちちのシーンが少なくなっちゃったのは遺憾の意であります。

とりあえず大正ドムサブシリーズはこれで一区切りです。
炭治郎君の悩みはちゃんと解決できてないような気がするんですが、
人生ってそんなもんです。この二人もまた同じ問題にぶつかったり、
悩んだりしながら、二人で解決していくんだと思います。

どうもありがとうございました！
次はオメガバでひたすらえっちしてるだけの漫画描くんだ…！

大正軸ドムサブシリーズ 作品一覧

キャプションにリンクを貼ってあります
よろしければこちらもどうぞ！



「満たしてあげよう こちらへおいで」

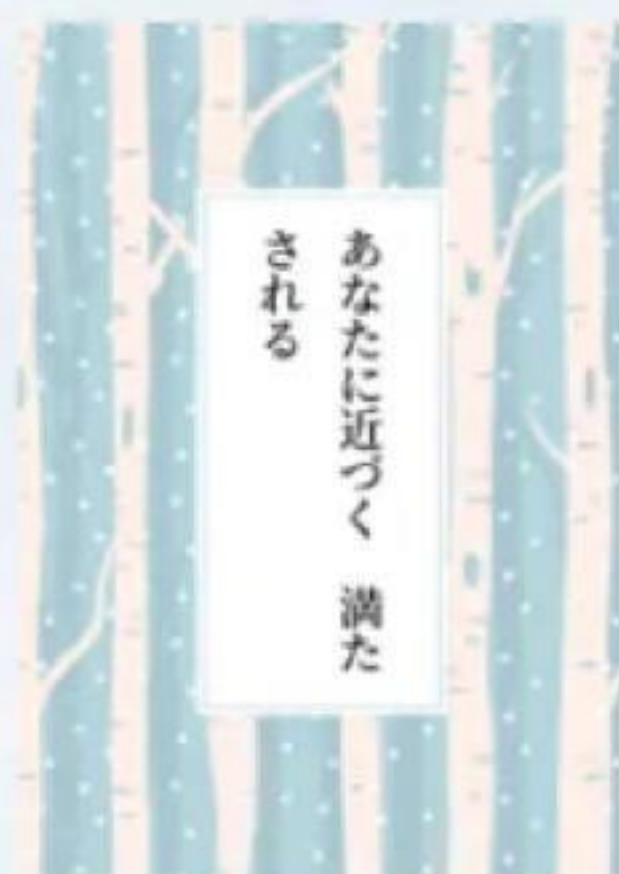
2022年7月発行

B5/44P/787円(税込/※書店価格)

最初のお話。

ドムサブ入門編です

ドムサブ知らなくても読めます(たぶん)



「あなたに近づく 満たされる(小話)」

2022年8月Pixiv掲載

小説未満の小話です。

時系列的には1冊目と2冊目の間の部分。

2冊目冒頭に入れる予定だったものの

ページ数の関係でカットしたエピソード。



「あなたに近づく 満たされる」

2022年12月発行

B5/72P/1210円(税込/※書店価格)

2冊目のお話。

ドムとサブとしての関係が進みます



「すべて委ねて 差し出して」

2024年1月発行

B5/88P/1760円(税込/※書店価格)

3冊目のお話。

だんだん関係が深まっていきます



「君と寄り添う 夢の涯」

2024年12月発行

B5/104P/1980円(税込/※書店価格)

シリーズ最新刊。

炭治郎の悩みと煉獄の独占欲のお話